キリストの弟子たちは自分たちが最初に祝福を与えられた者であることを自覚していなければなりません。そのアイデンティティーを確実に身につけることによってこそ、彼らはイエスが彼らに託す使命を生き抜くことができるからなのです。

そして、今日キリストの弟子のようになりたいと言う私たちにも同じような事実が与えられています。あなたがたも、同じように、洗礼を受けることによって、神からの使命を受け、祝福された一人と見なされたのです。神の呼びかけに答え、与えられた大切な使命を遂行し、神の偉大なる贖いの言葉の中に生きる為には、あなたは人生の早いうちにこの事を知っていなければなりません。これらの言葉は、神の美しい言葉によってあなた方を感動させるためだけではなく、限られた人間の想像力に苦しみ、未来への希望が霞んでいる世の中に、天の父なる神の描くする素晴らしい世の中を造る為なのです。ですから、あなたが求めているものを忘れてしまいなさい、そして何が真実かを見なさい、それが神様があなたに見て欲しいと願っているもの、それはあなたが神の愛する子、祝福された者であるということなのです。 アーメン。

お知らせ

来週の日曜日－11時半の日本語礼拝終了後、ささやかですが、日本語部で、安達寛、美那絵ご夫妻のお祝いをしたいと思います。皆様持ち寄りランチにご協力をお願いします。

2月19日は10時の合同礼拝（日英両語）の後、Japan Festivalが開催されます。収益は、2017LCR Youth Kumamoto Missionに寄付されます。

今週の教会活動

月曜日－和太鼓12:30PM、水曜日－Reagan Library Bus Trip 8時半LCR集合
木曜日－Paper Rollers 9AM

9812 Hamilton Avenue
Huntington Beach, CA 92646-8014
教会オフィス:(714)962－5005
日本語部直通電話:(714)964-1912
〈jministrylcr@gmail.com〉
日本語部牧師:安達 均
携帯:(949) 923-8535
website: california.lcrjm.com

「祝福された者」

マタイによる福音書5章1節ー12節

2017年1月29日説教

By Rev. Brad Stienstra

彼女が9年生の英語のクラス担当が決まった時、そのクラスには“Jim”という名前の男子が2名いました。名前が同じだからといって、彼女がこの2人を混同する心配は最初から全くありませんでした。実際の話、この2人は全く正反対の性格なので、誰も間違うことなどないだろうと彼女は信じていました。 1人の“Jim”は、模範生で、いつも陽気な楽しい性格でした;方やもう1人は、いつもしかめっ面をしていて、常にクラスを扇動して騒がせる生徒でした。 1人は良い成績を得るために一生懸命勉強し、もう1人は怠け者で、教育の必要性をまるで拒否して いるかのようでした。

ある時、予期していないことが起こりました。毎年行われる父兄会での出来事です。この教師がその日の午後 “Jim”の母親と面談をした時、彼女は「問題児のJim」の母親と面接していたのですが、どういうわけか、「良い子のJim」の母親と面接しているのだと思い込んでしまったのです。母親を間違えているとは気が付かずに、彼女はいかにこの母親が素晴らしく息子を育て上げたかを褒めちぎったのです。そしてこのような素晴らしい若者がクラスにいることがいかに喜ばしいことかと、称賛したのです。

次の日まで、彼女は自分がした不注意に気が付きませんでした。放課後、「問題児のJim」が、バツが悪そうにモジモジしながら彼女の机にやってきました。普段の彼には似合わない静かな声で、申し訳なさそうにこう言ったのです。「僕のママから、昨日先生が言ったことを聞きました。今までどの先生からも一度だって、僕がクラスにいるから嬉しいなんて言われたことはなかった。だから、今までの僕の悪い態度を謝ります。

これからは先生が言ってくれた褒め言葉に値するような人間になれるようにします。」

往々にして、私たちは、自分でそうだと思い込んだまま物事を見てしまう事があります。この先生が、この生徒を落第生と決めつけ、また生徒の方も自分はそうなんだと、自分でもレッテルを貼ってしまったように、私たちも自分たちの狭い了見で物事を評価し、そう思い込んでしまう。私たちは全てを的確に正当化したから安心だ、そう思い込むことで自分を欺いている傾向があります。しかし私たちが正確に見ていると信じ込んでいる時、実は私たちは素早く物事を見極めたい思いから、自分たちがそう見たことが正しいと自分に言い聞かせて、それでよしと満足しているだけなのです。そしてその結果、実際はその他にも見えているのに、それらを見過ごしてしまっているのです。そうなると、自分たちが他の人の本質や価値をすでに把握していると思い込んだり、自分が誰であり、何ができるかすでにわかっていると思い込んでいるとしたら、何か見失っているものがあるのかもしれない、と疑問に思えてきます。

私たちが神様にとって何が可能で何が不可能かを知ったように思う時や,神様がこの世にいつ現れるか、こんな場所には絶対に神様は現れないだろうとか、解ったように思う時、私たちは、実際に自分たちが何を見失っているのか考える必要があると思います。ですから、私たちには到底読み取ることも予想することもできない神様によって、一瞬でも、私たちがそうに違いないと思い込んでいることを忘れて、その代わりに真実が見えた時など、度肝を抜かすほど、自分でもびっくりするのです。

まさに神様は今日の福音を通して私たちにそのような体験を願っているのです。マタイは、この箇所で再びイエス様の初期の教えを語ってくれています。多くの皆さんが、それこそ子供の頃日曜学校でこの有名な山上の説教の箇所を何度も聞かれていると思います。ですから皆さんは、イエスが告げる一連の祝福にある内容は、すでに全て理解していると思われているかも知れません。

しかし、私たちがこのメッセージにある、「何」、だけに焦点を置いてしまい、自分たちがそれを理解したと思い込むことによって、それは「なぜ」、どうしてなのかと理由を尋ねる妨げになっているのかもしれません。なぜ彼はこの特定の場所と時間に説教を始めたのでしょうか？そして、なぜ彼はこの特定の言葉を用いて弟子たちに説教をしようと決めたのでしょうか？

イエス様はこの説教によって何かが起こることを望まれていました。それはただ単に彼の新しい友達に聞かせる為の響きの良い語句ではないのです。彼にとって非常に重要なことは、彼の弟子たちのミニストリーが素晴らしいスタートを切ることだったのです。彼らの為に準備を後回しにすることはできません。そこで、イエス様は、急いで平凡な男女をご自分の周りに集められました。そして彼らにとってこの集会が貴重な機会となるのは、彼らが単に聖なる者から祝福を受けるに値する人々だから集められたのではなく、彼らも実際に尊重するべき仲間の一人として含まれているのだということを体験してもらいたかったからなのです。従来の知識に反して、彼は最初に従って来たもの達を祝福したのです。それによって、今まで社会で役に立たない者とレッテルを貼られてきた人達が、おそらく人生で初めて自分が神様が彼らに与えられた可能性を知ることができ、自分の価値が評価されたことを骨身にしみるほど感じられたに違いません。

若いJimが、自分にはそんな価値はないと思っていたのに褒められた事と同じように、弟子たちは自分たちが予期していなかった言葉をイエスから聞いたのです。それは明らかに社会的地位が最も低い、特権者からは目もかけられないような者達に、天からの祝福が山ほど与えられた、驚くべき言葉なのです。彼らは多くの人々の中から自分たちが選ばれ、満たされ、慰められたことを知るのです。彼らは慈しみを受けます。彼らはこの世を受け継ぎ、天の王国にて大いなる報酬を得るのです。彼らは神からそれほど離れていない場所にいるどころか、神のみ顔を目の前に見れるのです。神はご自身自ら人間を低い者とされたので、彼らが洗練されていなくてもビクともされません。